



組合長と  
オペレーター



妙口原地区の概要

妙口原地区は西条市小松町にある石鎚山系の麓にある地域です。農地の割合としては、水田36.9ha、普通畑1.8ha、樹園地7.6haとなっております。主に水田農業が盛んな地域となっております。また、地域内を高速道路が通っており農地が分断されていることがあり農地の集積が難しいことや一枚一枚の農地面積が小さいため作業効率が悪くなる等の問題を抱えています。

妙口原地区は、一戸当たりの平均水田面積が50aとなっております。

集団活動の始まり

農家の状況として、65歳以上の基幹的農業者割合が63%となっており、高齢化が進んでいる地域であることもいえます。

戸あたりの所有面積が小さい。そのため個々の農家が水田経営に使う農機具を購入している負担が大きくなっています。そのような状況を打開するために昭和57年に妙口原機械利用組合を設立し水田経営の効率化と共励活動を展開したのが集落営農の始まりとなっております。妙口原機械利用組合は当初、数名の農家で構成され経営規模は4haほどでした。機械の共同利用、共同作業をすることによって作業の効率化を図ることが出来、経費削減としても満足いく結果となりました。そのようなこともあり年々、機械利用組合の利用者が多くなっていました。そのようなこともあり、平成



倉庫の内はいつも整理されている



機械のメンテナンスはいつも欠かさない

16年3月頃より新しい組織への実施検討が行われ始め、オペレーターを中心に数十回以上の検討会を開催するとともに、JAや関係機関との強力な連携を図り平成17年6月に妙口原生産組合が誕生しました。また、平成18年4月に特定農業団体として承認され、平成19年6月には、農事組合法人へとステップアップしました。

特集5  
地域の柱として  
活動を続けたい



農事組合法人  
妙口原生産組合  
代表理事

赤堀 保



# 地域農業を担う集落営農

～地域と共に生きる農業生産法人～



## 食料は命の源

当組合の扱い品目としては米、麦、大豆となっており、高品質、多収への取り組みとして、地元畜産農家より完熟堆肥を購入し、化学肥料だけに頼らない、土作りを念頭に置いた栽培方法をとっています。この堆肥購入にあたっては、当組合の生産したワラを畜産農家に

## 組合長自ら管理機で作業

に提供することによって良質な堆肥を安価に確保することができています。また、農薬使用量を減らしていく努力もしており、病害虫の発生予察と圃場確認による適期防除を行い、県栽培基準の約4割減で栽培し、環境保全型農業への取組を行うと共に命の源である食料を安全に栽培する事を基本に営農活動に励んでいます。このような取組によって低コストでの農業経営を行うこともできている。低コストでの生産を行うことで組合員への配当が増え収入の増加にも繋がっています。

また、新技術の導入などにも積極的に取り組み、結果が良かったものは地域にどんどん普及させるなどの取り組みを行なっています。

## 担い手問題

妙口原生産組合にはオペレーターが6名います。そのオペレーターも平均年齢67歳となり高齢化しています。当組合としても、担い手の確保が重要な課題となっており、今後の担い手対策としては、定年退職後地元に戻って農業をしていこうという人を対象にウォーミングアップのような形でオペレーターとして受け入れたいと考えています。

## 設立までの苦労

集落営農を始める時には周囲の反対意見が多く苦労したという話を聞くが、妙口原生産組合ではそのようなことが少なかったと思います。それは以前から妙口原機械利用組合として活動を



三台のトラクターで中耕作業

しながら地域を巻き込みながら経営を行なってきたからかもしれません。しかし栽培においては、裸麦や大豆で連作障害が発生して生育不順に陥るなど、近年天候の読めない年が多く栽培耕地面積が限られた中でほとんどの農地を活用している為、安定的な収量を上げることが難しくなっています。

## これからの活動

これからも、妙口地区では高齢化が進み、個々の農家では管理が難しくなった圃場が多く出てくるのは安易に予想が出来きません。そんな時でも、妙口原生産組合が農地を荒廃させないように請け負う体制をしっかりと整えていきたい。また、栽培面でも連作障害や天候不順による品質、収量の低下を防ぐために栽培、管理方法を工夫したり、関係機関と協力し良いと思われる新技術は率先して取り組み、安定した経営をしていきたいと考えています。

今後の見通しとして、当組合が農地を管理し耕作放棄地を作らないようにしておけば、現在企業へ就職している人が将来、地域に帰ってきて農業をする事が出来ると希望を持ってもらえることにつながるとも考えています。私たち組合は、地域の担い手として活動しているだけでなく、私たちが将来の農業を始める人の為に農地を守り、地域を荒廃させないようにしていると信じてこれからの活動の力としていきたいと思っています。



足りない物は工夫で手作り屋根